



# 院内感染対策 新型コロナウイルス感染症患者 入院受入れ時の換気の工夫

病室内のウイルス量を希釈するため、県内外の医療機関で実際に行っている換気の工夫点をご紹介します。  
各施設の状況に応じてご活用ください。



- 病室内のウイルス量を日頃から出来るだけ少なくするために、常時10cm程度窓を開ける。
- 機械換気設備を24時間稼働させる。換気スイッチが常にONになっているかを確認する。
- 機械換気がない場合は2方向の窓や扉を開けると空気の流れを作り、効果的な換気出来る。
- 病室の窓が1ヶ所の場合は、扇風機やサーキュレーターを窓側近くで外向けに配置し、室内の空気を外に出す流れを作る。
- HEPAフィルター付き空気清浄機等を   利用すると、ウイルス量の軽減が期待出来る。  
(定期的な清掃を心がけましょう。)
- 廊下側の出入口を閉めておくと、院内へのウイルスの流入を軽減することが出来る。スタッフの訪室時はノック（声かけ）し、本人に窓を閉めてマスク着用してもらい、ドアを開けることで急な空気の放出を防ぎ、職員へのウイルス暴露を減らすことが出来る。

## 院内感染対策 院内での外来診察の工夫

有症状者や陽性者の外来診療における工夫点を記載しています。  
各施設の状況に応じてご活用ください。

- 有症状時は、車内で待機してもらう。
- 施設内は不織布マスクの着用を必須とする。
- 診察時は、動線を分け、使用していない部屋があれば活用する。
- 人が混み合う場所には二酸化炭素濃度計を配置して、換気を目安としていく。
- 診察や検査でゾーニング出来ない場合は、来院時間を工夫し、時間隔離を行う。例えば、診療時間終了間際に来院し、限られたスタッフで対応する。
- 点滴治療が必要な場合、外来患者が少ない時間帯に来院してもらう。  
外来の処置室がゾーニング困難な場合は、空いている病室を活用する。
- 空気清浄機を活用する場合は、できるだけ患者の側に置く。（定期的な清掃を心がけましょう。）

